

## お礼とご報告

# 『語り継ぐ 1969』

## 糟谷孝幸追悼 50年 — その生と死

1969 糟谷孝幸 50 周年プロジェクト編

2,000 円＋税 (A5 版・488P)

社会評論社

2020 年

11 月 13 日

………  
ついに刊行！

日本原農民でありプロジェクト世話人の内藤秀之は「1969 年 11 月 13 日大阪扇町闘争において糟谷孝幸は機動隊の残虐な警棒の乱打によって虐殺された。21 才の短い生涯を閉じてから 50 年が経過した今も許すことはできないし、忘れることができない。樺美智子さんや山崎博昭さんは出てくるのに、糟谷孝幸を検索しても出てこない。何とかして、糟谷の記録を本にしたい」と糟谷プロジェクトを発足させました。幸い 1 年余りの間に、岡山・大阪・東京…山崎プロジェクトの皆さんをはじめ全国の多くの皆様に、呼びかけ人・賛同人になっていただき、糟谷基金も寄せられました。そうして、ついに 2020 年 11 月 13 日、刊行する運びになりました。ご協力して下さったすべての皆様、本当にありがとうございました。

糟谷本をぜひ手に取って読んでいただきたく、内容の紹介をさせていただきます。

表紙の帯には、以下の文言が記載されています。

ベトナム反戦！日米安保反対！沖縄米軍基地永久化反対！

職場・地区反戦青年委員会の労働者、全共闘の学生、へ平連などの市民が、激しい直接行動に立ちあがったあの時代。その一人、糟谷孝幸は警察機動隊の暴力に命を奪われた。

同時代を生きた人々が、コロナ禍の中、思いを熱く語った。明日へつながれ！

本書は序章から第 8 章までにわかれ、それぞれ特徴ある章立てとなっています。

「はしがき」には、「1969 年 11 月 13 日、佐藤首相の訪米を阻止しようとする激しいたたかいの渦中で、一人の若者が機動隊の暴行によって命を奪われた。糟谷孝幸、21 歳、岡山大学の学生であった。ごく普通の学生であった彼は全共闘運動に加わった後、11 月 13 日の大阪での実力闘争への参加を前にして『犠牲になれるのか。犠牲ではないのだ。それが僕が人間として生きることが可能な唯一の道なのだ』(日記)と自問自答し、逮捕を覚悟して決断し、行動に身を投じた。

糟谷君のたたかいと生き方を忘却することなく人びとの記憶にとどめると同時に、この時代になぜ大勢の人びとが抵抗の行動に立ち上がったのかを次の世代に語り継ぎたい。社会の不条理と権力の横暴に対する抵抗は決してなくなり、必ず蘇る一本書は、こうした願いを共有して 70 余名もの人間が自らの経験を踏まえ深い思いを込めて、コロナ禍と向きあう日々のなかで、執筆した共同の作品である。」と記してあります。

ごく普通の学生であった糟谷君が時代の大きな波に背中を押されながら、1969 年秋の闘いへの参加を前にして自問自答を繰り返し、逮捕を覚悟して決断し、行動に身を投じたその姿は、あの時代の若者の生き方の象徴だったとも言えます。

本書が、私たちが何者であり、何をなそうとしてきたか、次世代へ語り継ぐ一助になっていれば、幸いです。

※糟谷基金を寄せていただいた方には、送付させていただきます。

【お申し込み・お問い合わせ先】 1969 糟谷孝幸 50 周年プロジェクト 事務局

〒700-0971 岡山市北区野田 5-8-11 ほっと企画気付

電話 086-242-5220 (090-9410-6488 山田雅美) FAX 086-244-7724

E-mail:m-yamada@po1.oninet.ne.jp